

令和5年9月11日

小学校6年生児童の保護者の皆様

苫小牧市立明野小学校長 上埜 幸喜

令和5年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

初秋の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御清栄のことと拝察申し上げます。

また、日頃から本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年4月18日（火）に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が本年7月に北海道教育委員会から公表され、苫小牧市でも8月に公表されました。

本調査は、学習指導要領の定着状況の把握、すなわち児童が学習内容をどの程度理解しているかを把握することとともに、調査結果の分析から児童への指導の充実や学習状況の改善等を図ることを目的としています。苫小牧市は、市全体の平均正答数及び平均正答率を公表することとしておりますが、各学校の平均正答数及び平均正答率の公表については、本調査の目的と整合が図られないこと、学校の序列化を回避することが困難であることなどの理由から、行っておりません。

これを踏まえて、本校の結果と考察をまとめましたので、次のとおりお知らせします。

記

1 調査の概要

(1) 実施日

令和5年4月18日（火）

(2) 調査対象

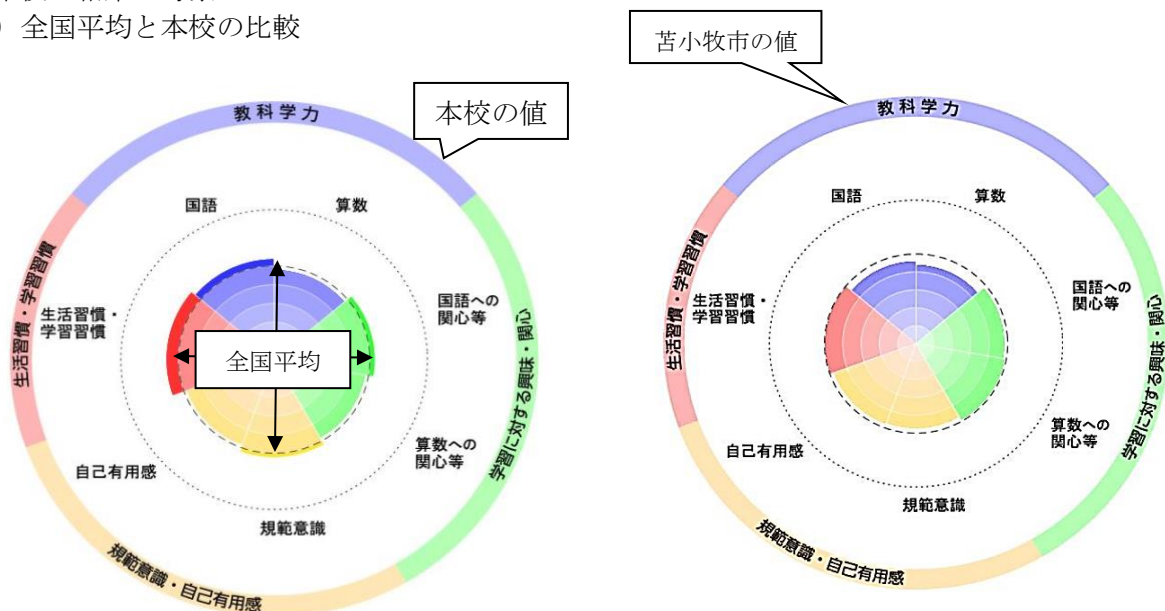
小学校第6学年（市内全小学校で実施）

(3) 調査内容等

- ① 教科に関する調査は、国語、算数の2教科が出題されました。
- ② 生活習慣、学習環境等に関する児童質問紙調査が実施されました。
- ③ 学校に対して、指導方法や教育条件の整備等に関する質問紙調査が実施されました。

2 本校の結果と考察

(1) 全国平均と本校の比較



(2) 国語科

(記載例)

- ・国語においては、平均正答率が全国平均を上回っている。
- ・国語の正答数の分布では、全国平均に比べ、中位層が薄く、上位・下位層が厚い傾向が見られる。
- ・領域別では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全てにおいて全国平均を超えており、特に「書くこと」については大きく超えている。
- ・「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」設問において、無回答率が低く、平均正答率が全国平均を上回っている。
- ・「情報と情報との関係付けて読み取る」設問において、全国平均正答率を下回っている。

(3) 算数科

- ・算数科においては、平均正答率が全国平均を下回っている。
- ・算数科の正答数の分布では、全国平均に比べ、下位層がやや多い傾向が見られる。
- ・どの領域も全国平均並みであるが、図形の領域においてやや低い傾向にある。
- ・計算（わり算の筆算）の仕組みを問う設問において、平均正答率が全国平均を上回っているが、四則演算が混合している計算や式の決まりを使った計算を問う設問が全国平均より低い。
- ・特に、伴って変わる二つの量の関係や図形の特徴や性質を問う設問において、平均正答率が全国平均を下回っている。

(4) 児童質問紙

学校生活

- ・発表する際には、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している児童が多い。
- ・友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童が多い。

家庭生活

- ・家庭で自分で計画を立てて学習をしている児童が全国平均を大きく上回っており、実施時間においても上回っている。
- ・学校以外で1日あたりの読書している時間が全国平均より多い。

3 学校の今後の取組について

- ◎どの教科においても、意欲的に学習に取り組める課題提示をしたり、個人の考えを認め合い、学級全体で課題を解決していくことできる授業展開を工夫したりすることで、学習内容の定着を図っていきます。
- ◎発達段階に応じて基礎・基本の定着が図られるために、朝の学習や家庭学習の取組を活用したり、だれもが分かる授業を目指した研修に取り組んだり学習内容をしっかりと身に付けることができるような取組を進めていきます。
- ◎学習の場だけではなく、児童が充実した学校生活を送ることができるよう、教育環境の整備や児童の活動（係活動や当番活動、プロジェクト活動、学校行事など）を工夫し、夢や希望をもち、自信をもって日々の生活を送ることができる教育活動を目指します。